2030年に向けて

すべては、豊かで可能性の広がる社会の創造のために

2030年の
ありたい姿

社会的ロスがない、便利で豊かな社会の実現に貢献する企業であり続け、ビジネス課題・社会課題解決の貢献に比例した事業成長を目指す

計数イメージ

	2022年	2030年
売上高	613億円	（CAGR:10-12%）1,300-1,500億円
営業利益	（営業利益率:6.2%）37億円	（営業利益率:10-12%）150億円
ROE	11.4%	12%以上
R&D費用	2%	3%

2030年に向けたインテージグループの事業環境と機会

2030年の市場環境は、デジタル化による産業の垣根がなくなり、少子高齢化による社会的な労働力不足、海外市場への更なる事業シフトが想定されます。このような市場環境の変化に対して、データ活用の重要性は飛躍的に高まっていくと想定されます。

現在のインテージグループビジョン／パーパスに立脚し、市場環境変化とともに変わっていく2030年におけるインテージグループの社会的役割はより広がっていく、すなわち大きな機会であると考えています。

創業以来60年以上培った、情報を収集し、加工・分析し、情報に価値を与えることは変わらないインテージグループの強みであり、これを活かし、より多くの生活者が生活価値向上を感じる社会実現への貢献を目指します。

機会

- 人口減少、高齢化社会の加速
- デジタル社会の加速
  生成型AI、Web3、メタバース…

＋

強み

- 多種・大量のデータ
  爆発的なデータ量の増加（玉石混淆）
  データ利活用に資するインプット
- 分析結果に基づく制御
  事業につながる仕組化
  データ利活用に資するアウトプット
- データを基に分析
  目的に応じたデータ整備

**より多くのお客様の事業活動を通じて、
より多くの生活者が生活価値の向上を感じる社会実現への貢献**

戦略実行とケイパビリティ

企業としての成長と社会課題の解決の両立を目指す2030年のありたい姿を実現するために、当社グループの持つ強みの一つであるMI（マーケティング・インテリジェンス）とBI（ビジネス・インテリジェンス）の両要素を持つ企業であることと、さまざまな業種のお客様とのつながりを活かした共通のサービス化を成し遂げることで、当社グループあるいは顧客の持つさまざまなデータを連携させ、テクノロジーの活用によってお客様の最適化や強化を支援していくことを目指しています。

What

さまざまなData連携とTechnology活用により企業活動の最適化と強化を支援

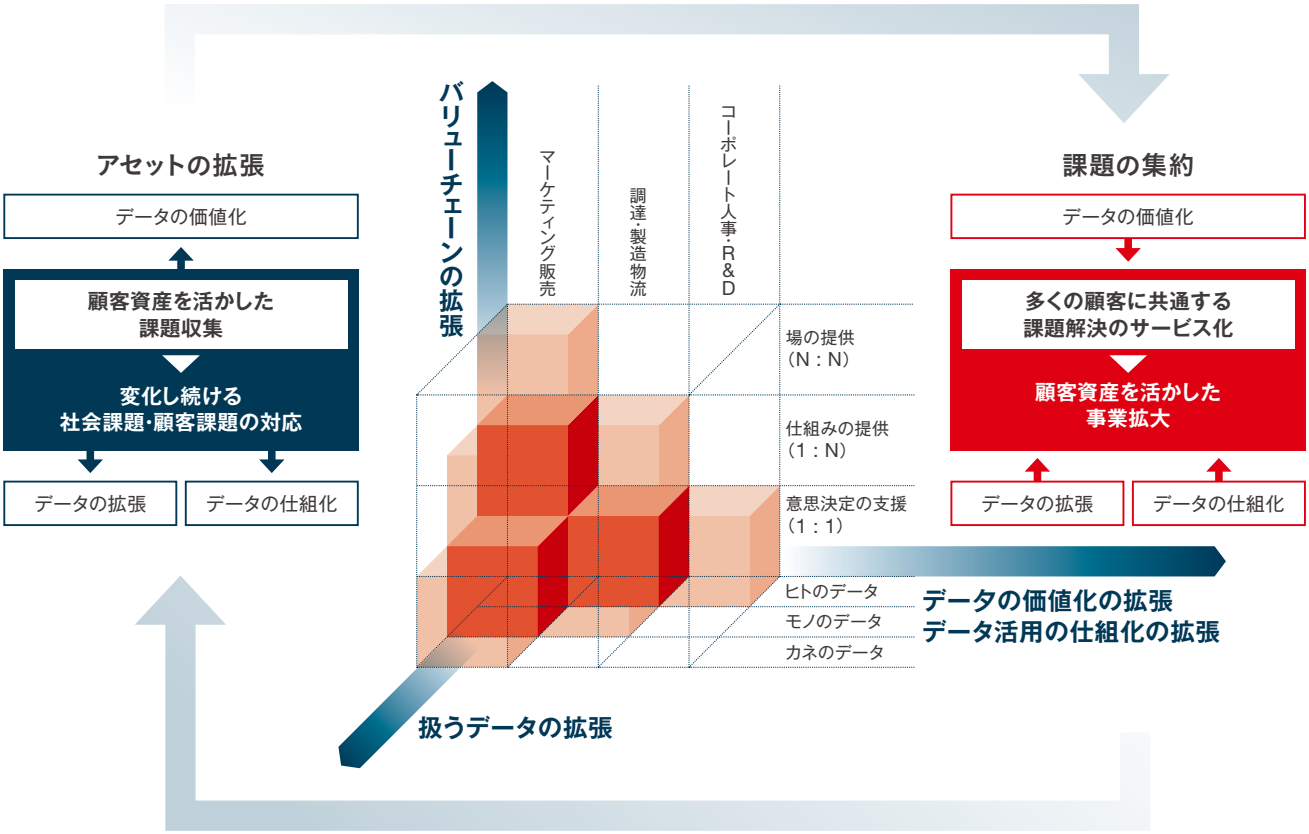
- **高齢化・多様化・成熟化する生活者のwantsの把握**
- **企業・自治体の意思決定支援**
- **企業・自治体のPDCAデータドリブンの支援**

How

インテージグループのケイパビリティを活かす

- **多くの顧客に共通するwantsのサービス化に向けて**
  FMCG、DCG、サービス、製薬、官庁自治体などさまざまな顧客接点の保有と顧客課題接近力
- **MI※を持つBI※企業、BIを持つMI企業として**
  データの拡張、価値化、仕組化を一体で実行できる力

※MI：マーケティングインテリジェンス　BI:ビジネスインテリジェンス

Data + Technologyで価値発揮の領域を拡張

これまでのインテージグループは、パネル調査のデータを始めとした人に関する価値あるデータ、すなわちマーケティングという分野におけるお客様の意思決定の支援を中心にビジネスの基盤を確立してきました。今後は取り扱うデータ自体を“拡張”させ、支援の領域を仕組化や場の提供などデータ活用の“価値化と仕組化“を強化し、これによってお客様を支援するバリューチェーンの”拡張”を目指し、更に「アセットの拡大」と「課題の集約」のサイクルを回すことで、価値発揮の領域を拡張していきます。